

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地	愛知県碧南市油漕町3丁目50番地		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2372800215-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で安心して過ごすことができるように支援しています。地域との交流を図るため、今年度より、法人全体として「認知症カフェ」「介護者教室」を定期的に開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年12月から毎週定期的に行っているバリデーション療法に力を入れている。全職員に研修を行い、専門のリーダー、職員、利用者で毎回1つのテーマを決め、回想法・歌・レク等を行っている。利用者が自分の役割を持つことにより、他者との交流が持てるようになったり、議長を務めることでやりがい生まれて体調が回復し、食事が摂れるようになった事例もある。

法人理念である「長寿をたのしむ」の共有と実践を図るために、全職員に対し「評価基準書(自己評価)」記入を実施している。さらに、ホームの職員に対しては、介護内容や用語の理解度を深めるためのレポートを提出させ、一層のスキルアップを図る施策も実施している。毎年年末に家族アンケートを実施し、意見要望の集約を行って対応策・目標を示して報告し、運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は共有できている。法人の理念を共有するため、「評価基準書」を全職員に取り組んでいただいている。	「長寿をたのしむ」を法人・事業所理念に掲げており、理念共有のために全職員を対象とした評価基準書記入(自己評価)を行っている。ホーム職員に対しては、更に認知症介護向上を目指した施策も採り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての活動と交流についてはできていない現状です。地域の活動としては、年一回秋に開催される地域の公民館祭りへは、毎年参加している。	併設事業所を含め、“みどり”として地域交流を重要課題に掲げて取り組んでいる。図書館や公民館祭りに利用者の作品展示を申し入れ、実現した。併設事業所と共催の認知症カフェを開設し、地域交流を促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室・認知症カフェにおいて、介護職員が、施設実践している認知症ケア(介護予防体操等)を地域一般の方に対して指導を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、日頃のご利用者様の様子、季節行事などの支援を実践している写真等(資料)を作成し、伝えている。ご家族様からの意見も取り入れるようにしている。	市担当課、民生委員、家族を招いて奇数月に開催している。毎回議題に工夫を凝らし、家族の出席率も非常に高い。過去には、民生委員の力添えで、回覧板にホーム便りを扱ってもらえることになった事例もある。	「目標達成計画」を公表して新しい目標に向けた取り組み状況を説明し、進捗状況を報告するとともに、出席者の意見が反映される場となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	碧南市地域包括支援センターをはじめ、市内にある三カ所の包括支援センターへ「介護者教室」「認知症カフェ」等の参加等の呼びかけなど連携を密にしている。	運営推進会議には、市担当課が包括支援センターの担当者が必ず出席しており、ホームの実状は適宜伝わっている。昨年からは、介護者教室を開催し、地域への貢献にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会に職員が参加し、身体拘束についての理解を深めている。玄関の鍵は夜間帯等以外は原則施錠はしていません。しかし、状況等によっては少しの時間帯だけ鍵をかけてしまうこともある。	身体拘束の弊害について理解を深めるため、勉強会・研修会を年間4～5回実施している。夜間以外は原則的には施錠しない方針で臨んでおり、徘徊癖や帰宅願望の強い利用者に対しては、小まめな見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会に参加し、理解を深めている。常に全職員が意識をもって対応するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係職員と連携をとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には親切かつ丁寧に説明に努めている。特に利用料金等については制度が複雑なため、より詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様及びご家族様に対して施設独自のアンケートを毎年実施し、施設運営に関することやご意見などを反映する仕組みづくりに取り組んでいる。	運営推進会議への家族参加率が高く、発言も多い。法人独自に家族アンケートを実施しており、意見・要望の聴取を行っている。9月の運営推進会議終了後の「家族ふれあい食事会」も恒例行事になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的にグループホーム会議では、管理者、計画作成者、在宅部門責任者が参加し、各職員とのコミュニケーションする場として、また意見・提案を言いやすい環境づくりに努めている。	毎月開催の職員会議には、経営者側も参加しており、職員の意見・要望は直接伝わっている。一昨年、エレベーター設置の要望が実現し、安心感に繋がった。職員からは、ゆとりある人員配置を望む声強い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の評価基準表をもとに、各職員の資質等について客観的指針に基づいて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修強化につとめ、職員を育てる取り組みとして特に新人職員に対して独自の研修プログラムを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加はできているが、他施設との交流する機会作りが実践できていない現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等について、常に傾聴の姿勢にて聞き取りを行い可能なかぎり、要望に沿うようように対応し、信頼関係を構築し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をできるかぎり、受け入れ、日頃の様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の状況や希望を理解し、求めている支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身に障害や疾病があったとしても、その人らしい生活習慣をできるかぎり尊重しながら、自立できるように支援することを念頭に職員とご利用者との信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様ならではの役割の支援を援助していただきながら、ご利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出掛けることが多くなってきているので、ご本人様の要望等をしっかりと受け止めて関係性が途切れないように支援している。	系列のデイサービス利用者が入居する場合があります。馴染みの職員との交流が見られる。併設特養にいる友達を尋ねる利用者もいる。和食の「サガミ」での食事を希望する声に、全員で出かけて外食の一時を楽しんだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流する機会として、毎週金曜日に「バリデーション」を実施し、職員を含めて支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうと、連絡等する機会がないが、同法人内併設特養施設へ入所されたご利用者様などは、適時合同で行われる行事等で交流する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や、以降に添った対応に心がけている。困難なケースなどは、法人内の相談員会議等で事例検討を通じて、ご本人だけでなくご家族様とも連携協力を伺いながら適時対応している。	利用者の思いは日々の会話の中から聞き出し、語れなくなった利用者の思いは表情や仕草から読み取っている。バリデーションを取り入れたことで利用者の思いの把握が容易となり、利用者の表情も変わってきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、本人及びご家族様から、さまざまな機会を通じて昔生活されていたときのさまざまなエピソードを尋ねるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者様の心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議にて計画を作成するにあたり、計画作成者を含めた他職種間で現状のさまざまな課題等を話し合いをし、ケアプランへ反映させている。	職員が気づいた事を書き込む「気づきノート」を基に、職員会議で利用者全員の現状を検討している。3か月毎にモニタリングを実施し、介護認定更新時に家族からの要望を聞き、介護計画の見直しに繋げている。	運営推進会議や認定調査時に家族からの意向を聞き取る事はできている。今後、さらに家族との話し合いができる機会を増やす事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の様子を記録している。職員間でご利用者様の様子、体調等の変化に適切に対応するために、申し送りの徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況を把握し、その時々に合わせて支援ができるよう可能かぎりできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の公民館祭りへ参加している。公民館祭りは毎年、グループホームご利用者様が作成した作品を展示させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の多くは、施設嘱託医のクリニックへ受診しているが、専門的な治療が必要な場合には、かかりつけ医と連携しながら他医療機関への受診を適切に行っている。	利用者全員がホーム協力医を主治医にしており、家族対応で定期受診している。個別に専門医への受診や併設特養の医師への受診もある。特養の看護師が薬の管理や状況報告を行っており、連携は取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特養看護師に適時相談し、指示をうけたり、必要に応じて早期に主治医等への診察を受けるなどの適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーと介護支援専門員との良好な連携ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、関係者と適時相談しながら方針を共有している。重度化した場合を想定して、併設特養への入所申し込み等についての支援を行っている。	終末期対応については、入居時に家族に説明している。食事が摂れなくなっても、医療的な処置の必要がない場合には、管理栄養士のいる併設特養への転居で病状が安定した例がある。主治医の紹介により入院した例もあり、その都度家族と話し合っている。	法人の研修は定期的に行われ、充実しているが、終末期に備える為の職員研修は確認できない。今後は終末期対応の職員研修を採り入れることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法の研修会を行っている。特に、初期対応についての訓練(AEDの操作等)についての訓練に重点を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。可能なかぎり、ご利用者様も参加した訓練を実施している。	年2回地震・火災発生を想定した避難訓練を行っている。内1回は併設特養と合同で、夜間想定避難・通報・消火訓練を行っている。元消防署員(元職員)によるAEDの使い方や救急法についての研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけと温かい気持ちで接するように心がけています。	日々の支援ではトイレの扉を閉める、カーテンを閉める、入室時にはノックをする、入浴時同性介助を希望する利用者には同性介助での対応を行う等、プライバシー保護や尊厳を重視した対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの要望を行事等に反映できるように、各職員と全ご利用者様が信頼関係を構築できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いを尊重した対応をしているが、時に職員側の都合により、希望に添わないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしとやれに配慮した支援として、定期的にボランティアによるネイルをしていただく機会があり、ご利用者様からは好評をいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるように、ご利用者様と職員が可能な限り一緒に食事準備(片付け等を含む)を行っている。ご利用者様の嗜好も考慮した献立としている。	職員が献立を考え、利用者に野菜の皮むき等を手伝ってもらって調理を行っている。季節感のあるメニューに心掛け、調査当日(秋)は、キノコやさつま芋を使った献立にする等、工夫を凝らした食事を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量等の把握に努めている。便通をよくする作用としてヨーグルトなどのメニューに取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいを実施。就寝前には、歯磨き、入歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、自立にむけての排泄介助に心がけている。	室内にトイレが設置してあるため、自立している人は見守りで、介助の必要な人は動き出したらずっと付き添っている。トイレでの排泄の継続を目指して小まめに誘導を行う等、利用者に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、食事メニューの工夫と、ヨーグルトなどの便通にいい食品をとるように献立の配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は原則14時から行っている。時に行事等や職員の配置状況によっては、適切な入浴支援がきびしい場合がある。	2日に1回の個浴を基準とし、希望により2人での入浴もある。柚子湯や菖蒲湯も取り入れ、檜風呂でゆったり気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴困難になった場合には、特養での機械浴の利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の個別性を尊重した対応をしている。夜間帯の巡視を約1時間ごとに行い、安心して良眠していただけるように適時声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が全ご利用者様がどのような薬を服用しているかを情報共有し、服薬の支援と病状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を的確に把握してそれぞれの役割ごとに活躍していただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に沿った外出支援は現状できていない。外出の機会としては、ご利用者様全員で外出する機会がある。	日常的な外出は敷地内の散歩、食材の買い物同行が主であり、外出可能な利用者が中心となる。人員配置に余裕はないが、本年は利用者全員での外出に力を入れており、希望の店への外食や近隣の公園への花見等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、原則ご家族様にお願いしている。必要に応じては、施設側にて金銭の立替をすることもある(受診代等)。職員とともに買い出しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば、電話をしていただいている。手紙については、現状やり取りするまでに至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースについては、ご利用者様の意向を取り入れている。季節感を感じられるような雰囲気づくりにも配慮している。	ホームは木のぬくもりがとても心地よい造りになっており、特に檜風呂は木の香りが漂い安らぎを感じさせる。玄関には利用者の貼り絵の大作が飾られ、居間は明るく広々としており、窓からは季節の木々が良く見え、落ち着いた静かな環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は普段は共用スペースであるリビング(ソファー有)にて過ごされているが、1人になりたいときなどは、玄関先にあるソファーを利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、自宅で長年利用されていた本人様のなじみのある家具等をできるがぎり居室に用意していただいている。	全体的にシンプルな部屋が多く、整理整頓されて過ごしやすい居室である。自宅での生活の延長として床に布団を敷いた居室、使い込んだ整理ダンスを持ち込んだ居室等、快適に過ごすための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室内にトイレが設置されていて、階段、廊下には手すりが設置している。また、階段の上り下りの負担軽減を目的として施設内にエレベーターを設置し、必要に応じて利用している。		